

刺咬症について

有害な虫に刺される、または咬まれると、刺咬症と呼びます。昼間ならハチ、夜間ならムカデが多いですが、他にも毒針を持つアリ(オオハリアリ、ヒアリ)、口器で皮膚を刺すカメムシ、有毒な毛を持つ毛虫(ドクガ類、イラガ類の幼虫)、毒牙を持つクモ(カバキコマチグモ、セアカゴケグモ)などが原因となります。

ハチ

ハチは昼行性のため、夜間に刺されることは稀です。急速にアナフィラキシーを発症することがあるため、まずは局所を冷却し、抗ヒスタミン薬を点滴します。皮膚の膨疹・かゆみ、口唇や舌の腫脹、呼吸困難、腹痛、嘔吐、血圧低下などのアナフィラキシー症状が現れた場合には 0.1% アドレナリン 0.01mg/kg(成人で 0.5mg まで、小児で 0.3mg まで)を大腿外側に筋注します。

ムカデ

ムカデによる被害の大半はトビズムカデによるものです。夜間に活動し、特に 6~7 月の雨の降る夜に室内に侵入することが多く、被害が多くなります。夜間に何かに咬まれて激痛を生じた場合には、マムシによる刺咬症と区別が必要です。ムカデは 2ヶ所の小さな咬み痕を認め、周囲に軽度の紅斑、腫脹を伴います。マムシは 2ヶ所の牙痕(約 1cm の間隔)を認め、出血と紫斑を伴うことが特徴です。ステロイド外用で治療しますが、ハチと同様にアナフィラキシーを発症することがあります。

アリ

オオハリアリは約 4mm の黒いアリで、公園や庭に生息しています。刺された直後は軽い痛みですが、翌日に赤く腫れる場合があります。ヒアリは 2.5~6.5mm の茶褐色のアリで、海外に生息します。海外からのコンテナ内で発見されていますが、日常生活で刺される可能性は低いとされています。いずれのアリもアナフィラキシーを発症することがあります。

毛虫

ドクガ類、イラガ類、カレハガ類などの毛虫に刺される場合があります。ドクガ類の毛虫は触れた翌日以降に頸部や上肢に激しいかゆみを伴う紅色丘疹が多発します。抗ヒスタミン薬の内服とステロイド外用を併用します。イラガ類の毛虫は触れた瞬間に痛みを認め、紅斑や膨疹が現れます。症状は 1~2 時間以内に治まることが多く、冷却とステロイド外用を併用します。

